

反核 医師の会 ニュース

第44号
2010年3月31日

Physicians Against Nuclear War (PANW)
核戦争に反対する医師の会事務局

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館 全国保険医団体連合会内
電話 03(3375)5121 FAX 03(3375)1885
e-mail: panw@doc-net.or.jp
http://no-nukes.doc-net.or.jp/

5月のNPT再検討委 前後になすべきこと



事務局長 松井 和夫

近年「核のない世界」「核廃絶」が日常聞かれる言葉となり、政治指導者の間でも当然のように使われている。しかし、その意味するところは我々が望む「核廃絶」には程遠いことも多い。さらに、核抑止力に固執する勢力は依然として強い影響力を持ち、廃絶への大きな壁となっている。

こうした状況の中で、我々が5月のNPT再検討委(以下、NPT)前後に取るべき戦略も明確になってきた。中期的な運動目標は、「モデル核兵器条約」のような包括的な法的枠組みを持つ条約の制定(ICANそのものである)、そして「北東アジア非核地帯」の実現である。短期的にはそれらを目指した政府間交渉の早期開始と、その第一歩としての非核保有国への

核先制不使用宣言や消極的安全保障であろう。さらに核密約の存在を政府が実質的に認めたと、非核三原則および米国防政策の非可逆性の担保として、「非核神戸方式」の全国そして全世界への普及も重要な課題だと思われる。

NPTが目前に迫っている。残念なことに、日本をはじめ各国政府の姿勢からは2000年NPT最終合意文書を上回る成果は期待できそうにない。しかし、明るい材料もある。ICANN D報告書を受けての日豪共同声明には評価できる点もある。日韓のPNND(核廃絶核軍縮議員連盟)が連帯して北東アジア非核地帯構想実現のための活動を開始、NPTで北東アジア非核地帯化をアジェンダとすることを求めている。非核自治体協議会もグローバルな運動を始動した。何よりも世界中の核廃絶を求めるNGOが創意工夫し頑張っている。5月までの各国の

「大阪反核平和医療人の会」が結成



講演する色平哲朗氏(写真下)

今後1年間の核廃絶運動の成果が、被爆者が核廃絶を見届けることができるかどうかの決定的要素である。9月に奈良で開催される「第21回つどい」では、NPT後の活動に焦点が当てられる。この重要な「つどい」に、是非参加し、素晴らしいアイデアを持ち寄っていたいただきたい。

大阪医科・歯科保険医協会、大阪民医連、大阪医労連による準備会活動を経て、2月7日に「大阪反核平和医療人の会」を結成し、64人が参加した。特筆できる点は、医学生が4人集まり、大阪出身の秋田大学の女性学生が本会に入会した。オバマ米大統領の「プラハ演説」以来、核廃絶に向けた世界的規模の世論と運動が高まりつつある。しかし、オバマ氏の核抑止論では、核廃絶が実現するとは考えられない。事態を動かすのは世論である。今年の

核不拡散条約(NPT)再検討会議に向け、世界中の市民やNGOが連帯し、力をもつにしようかどうかが問われている。今がその好機でもある。今後I P P N W大阪支部とも、一致する要求に基づく行動を継続していく。私たち医師・歯科医師をはじめとする大阪の医療従事者は、人命を守る社会的責務と良心から命を脅かす核戦争に反対し、劣化ウラン弾を含む核兵器廃絶の実現をめざす。通常兵器による戦争にも反対し、平和運動などにも取り組む。唯一

の被爆国の医療従事者として、再び被爆者を生み出さないよう人びとに広く訴え、核廃絶の実現に共同行動をとる。また被爆者救済にもさらに力を結集する。今年5月のI P P N W大阪支部とも、一致する要求に基づく行動を継続していく。私たち医師・歯科医師をはじめとする大阪の医療従事者は、人命を守る社会的責務と良心から命を脅かす核戦争に反対し、劣化ウラン弾を含む核兵器廃絶の実現をめざす。通常兵器による戦争にも反対し、平和運動などにも取り組む。唯一

(H・T)

第19回IPPNW世界大会 2010年8月26日～29日 スイス・バーゼルで開催

今年8月26日から29日までの日程で、スイス・バーゼルにおいて、第19回IPPNW世界大会が開催されます。今回は核戦争に反対する医師の会からの代表団を派遣します。ご参加希望の方は、下記までお問い合わせ、お申し込みいただきますようお願いいたします。(なお、現時点の大会の詳細については、IPPNWの公式ホームページをご参照ください。http://www.ippnw2010.org)

◆メインテーマ: 「nuclear abolition: for a future!」

◆会期: 2010年8月26日(木)夜 Welcome Get-together
～29日(日)13時 Closing Session

◆行程予定: 2010年8月25日(水) 午前・成田発
～8月31日(月) 朝・成田着の7日間。

◆費用 35万から40万の予定
(航空運賃代、現地5泊5朝食分。登録費用など別。
(費用はあくまでも予定ですので、ご了承ください)

◆登録費用 (第1次申込受付(5月31日まで)) 39,000円
(それ以降の登録費用は48,000円)

第1次申し込み締切 2010年5月31日

◆問い合わせ先
日本通運(株)汐留シオサイト旅行支店営業推進グループ
連絡先 〒105-8322 東京都港区東新橋1-9-3日本本社ビル11F
TEL 03-6251-6254 FAX 03-6251-6341
(担当: 稲田・鈴木)

反核医師の会事務局
151-0053 東京都渋谷区代々木2-5-5 新宿農協会館6F 全国保険医団体連合会内
代表 03-3375-5121 FAX 03-3375-1862
panw@doc-net.or.jp



1996年4月危険な普天間基地の7年以内返還が橋本・モリゾウ会談で合意されて以来14年が過ぎた。これだけタイムリミットが過ぎてしまったのは、普天間代替基地を打診されたすべての自治体がいずれも受け入れを拒否したためである。96年12月SACO最終報告で名護市東海岸海上案が打ち出されたが、名護市民、県民の意向が反映されたものではなかった。翌97年12月、名護市民投票の結果海上基地反対票が過半数を獲得し、明確な民意が表明された。しかし当時の比嘉鉄也名護市長は突然奇策を弄し、市長を辞任すると同時に強引にも東海岸への基地受け入れを容認した。以来地元市民、県民などは、海上阻止行動や、13年にも及ぶ座り込みなどにより基地建設のための環境アセスを阻止してきた。海上案の原案は修正され、大浦湾を埋め立てて、キャンブシユワブの陸続きとし、さらにそこにV字型滑走路や新たに軍港を造り、陸海空複合型の巨大基地案に発展している。米政府は現在の案がベストだと言うが、それは軍事的合理性の立場であって住民生活や環境保護の視点は一切無視されている。以上のような経過があつて、最近の県議会では全会一致で県外、国外への移設を決議し、現地名護市の市長選挙でも基地ノウの意志が明確に示された。鳩山政権は袋小路に追い込まれる懸念がますます深まるばかりである。

民医連被爆者医療セミナーの ご紹介

東京 向山 新



この間、民医連では原爆症認定集団訴訟に医師団を組織してかわり、医師団意見書を作り上げてきた。各地で被爆者医療にかかわってきた医師が加わって

る。しかし、参加した医師には若い医師は少なく、被爆者医療の後継者作りにはどこも苦心をしている。

そこで、全日本民医連ひばく問題委員会主催で、後継者の育成を目的に2年に1回「被爆医療セミナー」を開催している。今までは、被爆医療に長年携わってきた先輩医師の講演、放射線物理学の基礎知識、被爆者の援護施策の歴史・被

爆者援護法の基礎知識、原爆症認定を巡る過去の訴訟と集団訴訟の歴史、被爆者外来の実際、原爆症認定診断書の書き方、などなどである。民医連の被爆医療の歴史や、放射線、原爆の基礎的な知識、実際の診療現場で役に立つ知識を経験ある医師らが解説している。

参加者は、若手医師に限らず、看護師、保健師、ケイ・スワーカー、健診担当者など様々な職種で、評判は上々である。

しかし、ここで得た知識を実際の現場で生かしていくとなるとなかなか難しいのが現状である。地域によっては日常の医療の現場で

実際に被爆者と接する機会が少ないということがあり、原水禁大会に参加した青年職員の取り組みとして日曜日の被爆者集団健診を開始し、地域の被団協の組

織とのつながりを持つことが、健康だけでなく日常的に医療機関を訪れてもらえるようになった立川相互病院のような経験も紹介してゆきたいと思っている。

もう一つは、同じ11月の下旬京都のIPPNNW、反核医師の会が中心となり秋葉忠利広島市長の講演会が京都で開かれたことである。その講演の中で市長は都市が国家間の戦争でいつもその被害者として、悲惨な体験の歴史をもっていることにより、都市と都市はその平和を守るために協力しあえる関係にあると述べた。そして市長が呼びかける世界平和市長会議に参加する都市が年々増加していることを報告された。また広島市長崎以後世界は何度か核戦争の危機に直面したが、それを回避できたのは核戦争の悲惨さを世界に語りつづ

昨年、印象に残ったこと

京都 秋山 和雄



今年の活動で印象に残った二つのことについて報告したい。

まず一つは11月に鹿児島で開かれた第20回反核医師のつどいin鹿児島でのパネリスト田中登氏の発言である。氏は現在91歳で1945年8月9日長崎で被爆した。氏によれば当時27歳で

三菱造船所の中にあつた高等商船学校で授業中、物凄い閃光と爆風で真暗になった。その後学校の高い高台より見た光景は人も車も何一つ動くものもない死の街であつた。翌日は浦上方面の救援のため出かけたが、そこで目にしたものは、電車の残骸の中や、側溝、暗きよの中の死体の数々であり、浦上川は上流から死体が流れてきて岸に折り重なっているという全く悲惨な状態であつた。氏は結びの中で一瞬にして7万4千人の命を奪い、また7万5千

人の人々を傷つけた核兵器が二度と被爆者を作らないよう核廃絶を強く訴えられた。

また、5月に開かれるIPPNNW再検討会議には、愛知県保険医協会・反核医師の会から事務局1人を含む4人を派遣することを決め、「核兵器のない世界へ」の署名と代表派遣カンパにも取り組んでいる。すでに100人以上の署名を集めた経験や、返信封筒をつけて署名用紙を患者さんに手渡し取り組みを始めた先生などの経験がきっかけだ

けて来た語りべとしての被爆者の存在が大きいことも述べられた。

原爆被害が他の戦争被害と異なる点は、その大量無差別性、瞬間奇襲性、継続的人間破壊性である。そのことを自分の体験として語った田中登氏の姿が秋葉市長の講演と重層して非核平和の大切さをあらためて自分の心に刻んだ。

被爆者集団訴訟では、3月11日に名古屋高裁判決があり、全国と比較すると厳しい名古屋地裁判決を乗り越えた、白内障の原告を原爆症として認定した。しかし、脾臓細胞については訴えを退けた。

昨年のオバマ米国大統領のプラハ演説で大きく膨らんだ期待を受けて、また日本政治のチェンジも力として核廃絶へ向けた確実な一歩が踏み出せるように、反核医師の会・愛知としても着実に努力を傾けたい。

入会1年を経て

佐賀 千葉 研介



反核医師の会へ入会し1年が経とうとしている。この間、オバマ大統領のプラハ演説を契機に世界中で核兵器廃絶への運動が大きく

原水禁運動の意義と歴史など多くを学ぶことができた。また原爆の日を初めて被爆地で迎え、被爆者の願いを継承・発信し、被爆の実相を次の世代と世界へ伝える証言活動や原爆展に取り組む必要を感じた。

さて、原子力発電のプルサーマル計画については全国的に安全性、必要性、そして使用済みMOX燃料の処理について問題点が指摘されている。使用済みMOX燃料は数万年の管理が必要で、子々孫々に大変な禍根を残すので反対したが、私が住む佐賀県では全国で初のプルサーマルが玄海原子力発電所で昨年11月に開始されたことは残念であ

愛知の反核医師の会では、毎年5月ごろ一般市民

「核戦争に反対する医師の会」 愛知」からの報告

愛知 中川 武夫



の方にも参加を呼び掛け、記念講演会を開催し、核戦争の防止と核兵器の廃絶に向けた取り組みを行っている。今年も、愛知県保険医協会が創立60周年の年にあたり、保険医協会の後援も受けて企画を検討し、先の世話人会でアーサー・ピナ

ド氏を講師としてお招きすることを決めた。氏は、日本在住で、詩人、絵本作家、翻訳家、ラジオパーソナリティーなどと日本で広範な活動をされている。絵本では、水爆実験の被害に合った「第5福竜丸」を描いたものがよく知られている。講演では、「平和と核兵器廃絶を求めて、憲法9条を生かそう、そのために、私たちはそれぞれ何ができるのか」について熱く語ってもらおう予定である。講演会は、5月22日(土)午後

2時半から、愛知協会・伏見会議室で開催される。

また、5月に開かれるIPPNNW再検討会議には、愛知県保険医協会・反核医師の会から事務局1人を含む4人を派遣することを決め、「核兵器のない世界へ」の署名と代表派遣カンパにも取り組んでいる。すでに100人以上の署名を集めた経験や、返信封筒をつけて署名用紙を患者さんに手渡し取り組みを始めた先生などの経験がきっかけだ

核廃絶へ向けた確実な一歩が踏み出せるように、反核医師の会・愛知としても着実に努力を傾けたい。



昨年、11月25日、核戦争防止京都医師の会、京都府保険医協会、同歯科保険医協会、非核の政府を求める京都の会、京都YMCA、京都YWCA等、幅広い14団体でつくる実行委員会が主催し、シルクホールで秋葉忠利広島市長を招いた講演会を開催し、450人の市民が参加し、大きく成功させた。(写真左上は講演する秋葉忠利市長)

学生会部
コーナー

長崎で平和を学ぶ

長崎大学医学部4年 加山 恵美奈



私はもともと埼玉出身ですが、進学のために長崎に来てもう4年になります。長崎といえば、世界で2番目の被爆地であるというイメージが強く、長崎で暮らしたら平和に対する関心が深まるのだろうか、と来るまでは思っていました。しかし、実際に長崎での生活に慣れると、「被爆地に住んでいる」という実感は薄れていました。長崎は美しい町であるし、爆心地周辺

に被爆の傷跡を残している以外は完全な復興を遂げているように見え、自分が「65年前に悲劇が起こった土地に住んでいる」という感覚はつい忘れてしまっていました。先日、埼玉から旧友が来て長崎を案内するという機会がありました。そこで、久々に平和祈念館や資料館、爆心地公園を廻りました。資料館は1年生のときに見学したことがあるのですが、「核兵器は一瞬で人々の命、生活、人生すべてを破壊してしまうんだ」ということを再び実感したと共に、友達の「人間って馬鹿だね。65年前にあんな

「日本が第2次大戦中にしたことには正しかった」というふうには植え付けられそうになります。自分によほどしっかりと軸がないと、「広島・長崎を繰り返さない」という信念がないと、「国防のためにはミサイルだつて必要なんだ」と、考えがぐらつきそうになります。これは、私だけではな

の仲間を長崎に招いて原爆資料館や自衛隊博物館を見学してもらいたいと思います。そして、ディスカッションで「核兵器を廃絶する」という軸を自分たちの中にあらためて立て、核廃絶のためにできることつてなんだろう、どうしたら歴史認識を多くの人と共有できるようにするのか、仲間と

被災56年 3・1 ビキニデー



被災56年3・1ビキニデーの諸行事が2月27日～3月1日に静岡県内で開かれた。間近に迫るNPT(核拡散防止条約)再検討会議に向け、核兵器廃絶への決意を固めあう場となった。(右端は、IPPNWオーストラリア代表のティルマン・ラフ氏。)

ことがあったのに、まだ核兵器は世界にたくさん残っているなんて……」というつぶやきで目が覚めたような気がしました。資料館は8月9日に何が長崎で起こったかを展示しているだけでなく、それ以降の世界の動きや現在の核所有国についても勉強できるようになっています。本当に核兵器のない時代が来るのかな、そのために自分には何ができるのだろうか、と考えてしまいました。

まずは反核医師の会で学生部会が立ち上がったので、そこで知りあった全国の仲間を長崎に招いて原爆資料館や自衛隊博物館を見学してもらいたいと思います。そして、ディスカッションで「核兵器を廃絶する」という軸を自分たちの中にあらためて立て、核廃絶のためにできることつてなんだろう、どうしたら歴史認識を多くの人と共有できるようにするのか、仲間と

遂に日米外交密約にメスが入った。「密約」調査の報告書が問題の「極秘」外交文書を添えて3月9日に公表されたのである。日本政治史に残る出来事である。

時事
モニター

第1回

遂にメスが入った日米密約

国民の最大の関心事である「核持込み」について、歴代の内閣は持ち込みを容認する「密約」はないと言いつつ、報告書は核持込を認める

の結論には問題も多い。例えば、核兵器持込「密約」を文書化した「討議の記録」の存在が確認されたにもかかわらず、有識者委員会は「日本政府は、嘘をふくむ不

報告後、岡田外務大臣は「鳩山政権は、『核兵器を持ち込ませず』と非核三原則を堅持する方針を強調しつつも、『有事の際には……時の政権が認めるかどうか判断すべきだ』とも述べた

大臣が「1960年1月の安保条約改定時の、核持込みに関する『密約』」など4件の「密約」について省内の資料調査を命令した。同時に「有識者委員会」を設け、資料の検証と「当時の時代背景を踏まえた歴史的な評価」を求めた

文書(コピー)を確認した。朝鮮半島有事における米軍自由出撃、沖縄返還時の原状回復経費肩代わりも「密約」を示す文書が確認された。しかし、有識者委員会

正直な説明に終始(したが)、「その責任と反省は『冷戦下における核抑止戦略の実態と日本国民の反核感情との間を調整すること(の難しさ)を考慮」するべきとした。

化しただけである。「密約」調査全体について国民が批判的にしつかりと検証する必要がある。(2010・3・18記)

「核兵器のない世界を」署名

NPTへ送り出し集会



3月16日、東京都内でNPT再検討会議に向け、「核兵器のない世界を」署名船積み・送り出し集会が開催された。箱詰めされた署名を前に、NPT・ニューヨーク行動参加者7人から決意表明がされた。今春高校を卒業したばかりの女性は「自分の子どもや孫の代まで核兵器で悩んでほしくない。『私たちの代で核兵器なくせたらいい』と友達と話せるよう、活動していきたい」と語った。また海外や国内からのメッセージも紹介された。IPPNWオーストラリア代表のティルマン・ラフ氏からは「最悪の恐怖の兵器のない世界を子どもたちに手渡すために、人々の願いを示す署名を組織されたことに、深く感謝します」という言葉が寄せられた。集会終了時までに署名は400万6470筆に達したことが報告された。NPT再検討会議までに、さらに運動を強めることが呼びかけられた。

各地の反核医師の会から

東京 総会・記念講演を開催 「核兵器のない世界は実現できるか」

2月6日の核兵器廃絶・核戦争阻止東京医師・歯科医師の会総会・記念講演には、31人が出席した。講師は、東大大学院教授・九条



東京反核医師の会総会で記念講演する小森陽一氏と総会の様子(写真・下)



小森氏は、09年の原爆忌やクリントンの北朝鮮電撃訪問が「のりピー事件」で黙殺されたことなどを例に、日本の報道の偏りと、恐怖をあおって憲法九条「改正」を目論む恣意的な動きを指摘した。

朝鮮戦争以来、日本は一部の政治家・財界人が再軍備を目指したが、憲法九条第二項「陸海空軍その他」の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めないが楯となり、叶わなかった。その後、この九条解釈をめぐる攻防が、90年代のタカ派・ハト派の政治抗争にもつながっていく。現民主党幹事長である小沢一郎氏も、当

2010年度会費納入と募金のお願い

2010年度を迎えました。本会は、会員の皆様の会費と主旨に賛同いただいている募金によって、運営をおこなっております。今年もNPT再検討会議(5月・ニューヨーク)、IPPNW世界大会(8月・スイス・バーゼル)、第22回反核医師医学者のつどい(9月・奈良)など、大きな行動、企画が予定されております。また、医師の団体として、核廃絶にむけた目に見える行動にもとりくんでいきたいと考えています。

- 個人会員 (医師・歯科医師、医学者) 10,000円
- 医・歯学生会員 1,000円
- 賛助会員 1,000円

《振込先》
 ◇りそな銀行 新都心営業部 普通 1557502 「反核医師 医学者の集い」
 ◇郵便振替 00170-7-56764 「反核医師・医学者のつどい」

埼玉 被爆者の体内に生き続ける原爆 朝長万左男氏が記念講演

核戦争を防止する埼玉県医師・歯科医師の会は、1月23日(土)に総会と記念講演会を開催した。朝長万左男氏(日赤長崎原爆病院院長・JPPNW長崎支部長)が「被爆者の体内に生き続ける原爆」人体影響の最新情報」と題して記念講演を行い、「核兵器での被害は一発でも耐え難い」と述べ「核兵器廃絶を緊急の課題として運動を」と訴えた。

核戦争を防止する埼玉県医師・歯科医師の会は、1月23日(土)に総会と記念講演会を開催した。朝長万左男氏(日赤長崎原爆病院院長・JPPNW長崎支部長)が「被爆者の体内に生き続ける原爆」人体影響の最新情報」と題して記念講演を行い、「核兵器での被害は一発でも耐え難い」と述べ「核兵器廃絶を緊急の課題として運動を」と訴えた。



だが、一生き続ける細胞。放射線が幹細胞の遺伝子が傷つけられ癌化することによって、癌の生涯持続性が説明できる」という最新の知見を紹介した。そして、1984年に人間の癌が遺伝子病だと確立した。抗癌剤が開発され、4割の急性骨髄性白血病が治せる時代となった。しかし最近

は、高齢被爆者に骨髄異形成症候群が多く発症していること、様々な癌が放射線量と相関があるが、なぜそうなのかを説明できず、多くの課題が残されていることを強調した。ただし幹細胞ヒット説が証明されつつあり、遺伝子レベルでの治療の展望を語った。最後に「若年被爆2世は今から癌年齢となり、2045年にピークを迎える。今後も、被爆者の実像をねばり強く訴えていく」と述べ講演を終了した。

講演後に開催した総会では、医師が核廃絶に向けてどういった役割を果たしていくかなどが議論され、2010年度方針などを決定した。



はだしのゲン

BAREFOOT GEN—英訳版完成



金沢の「プロジェクト・ゲン」(浅妻南海江代表)が2000年から進めてきた「はだしのゲン」英訳版はこの8月9日に第9巻、10巻が、ついに完成した。完成した全10巻は作者の中沢啓治氏の手紙を添えてオバマ大統領に送られている。昨年9月、広島で行われたICNNND日本連絡会主催のシンポジウムに参加したCND(核軍縮運動)のレベッカさんに英訳本の紹介をしたところ、「イギリスで反核運動がなかなか進まないのは市民が被爆の実相を理解していないことが大きい」と述べられた。

また、昨年の鹿児島での「つどい」で講演した朝長先生はフロアからの質問に答えて「外国で原爆症としての白血病などの学会講演をしてもマスコミが取り上げることがない。核廃絶が実現するときはアメリカ市民が真に被爆の実相を理解したときでないか」と述べられた。

石川では国際交流センター、留学生会館などに寄贈を考えている。幅広く、普及するために協力ください。

(石川・白崎良明)

●本のお届け
 *送料として300円をお願いいたします。
 *本をお送りする際、郵便振替用紙を添付します。
 *銀行振込も可能です(その際、手数料のご負担をお願いします)。
 ●ご意見・ご感想などありましたら当方にお寄せ下さい。

中沢啓治作 まんが『はだしのゲン』
 翻訳・出版グループ プロジェクト・ゲン
 TEL/FAX 076-242-6559 e-mail: project-gen@msg.biglobe.ne.jp